

街を行く

第65回 姫路 Himeji

世界遺産を謳歌しています

姫路に来て、まず訪日旅行客の多さにびっくりしました。よくみると中国人“爆買いツアー”客は少なく欧米人の姿が目立ちます。姫路は、爆買いのついでには立ち寄らないが、歴史観光ルートでは欠かせない所なのでしょう。姫路を訪れる人のお目当ては十中八九「姫路城」に間違いありません。

姫路城の魅力は城の見目の美しさ。ただし日本全国を見渡すと姫路城に勝るとも劣らぬお城は各地に建立されています。実際小生は数多くの美天守閣たちと出会いを重ねてきたのです。

それなのに姫路城ばかりがなぜモテる？ 結局のところ「世界遺産」に登録されたからでしょう。観光地だけの話ではないですが、どんなに質が高くとも、グローバル評価基準でお墨付きを貰った者には敵わないということ。改めてグローバルスタンダードとは凄いものです。

ミシュランガイドの星の数にはハッキリした基準などないですが、世界遺産の選考もまた同じ。だからといって文句をつけても仕方がない。ここで言いたいのは、お墨付きの威力の絶大さを利用しない手はないということです。地方観光地は国内需要だけでは活性化が困難で海外からの旅行客をどう誘い込むかが大きなカギ。それには国際的評価を賜るのが手取り早い。頼まずともメディアが良い宣伝をしてくれます。ちなみに姫路城は「日本のお城の代表」として紹介されているのです。

それを受けてか、以前に増して「白鷺城」たる美白が強調され、なかには“白



歴史観光に欠かすことのできない姫路城。通称「白鷺城」ですが、改装で「白過ぎ城」に？

過ぎ城」と比喻する人もいます。

まあ、何はともあれこの街の中心は城。実際にお城を中心に道路の拡幅も進んでいます。道路はいまや敵との合戦に備えるためでなく観光客を招くため、如何に使いやすいか戦略が練られています。この有様を姫路城を築城した祖先達はどう眺めていることでしょう。

当然、観光客はここで食事はしますが、宿泊は？ 宿泊まで足を止めさせるにはインパクトが必要です。姫路の西には同じ世界遺産の「安芸の宮島」が、東には神戸・大阪・京都が控えています。どちらも新幹線ですぐ。この便利さは残酷なもので、人から旅の情緒を奪い、地域には他との競争を煽り、優劣を決

めたがります。街と街が勝ち負けで争うことはナンセンスの極みであり、その競争は個性のぶつかり合いでお願いしたいものです。その街の競争は世界遺産を超えて、次のスタンダードに動いているのかもしれませんが。

南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。